

夢を見ることを表す表現の類型論

平 塚 徹

要 旨

本稿は、夢を見ることを表す表現の類型を明らかにする。当該の表現についての類型論的研究はこれまでなかった。主要な類型として以下の三つが認められた。

(i) 動詞で表される場合：この類型では、夢を見ることが動詞として語彙化されている。ヨーロッパやポリネシアで多く見られるが、その他の地域にも点在している。同族目的語を取る場合もあり、同族目的語を取るのが通常である言語もある。

(ii) 軽動詞が用いられる場合：この類型では、軽動詞が夢を表す名詞を目的語として取る。この類型はあまり多くないが、異なる地域で見られる。いくつかのヨーロッパの言語では、夢を見ることを表すために所有動詞が使われているが、地域的な特徴と考えられる。

(iii) 視覚動詞：この類型では、「夢」を表す名詞と視覚動詞が用いられる。西南アジア、中央アジア、南アジアに多く分布し、東ヨーロッパや東南アジアにも見られる。

この他にも稀なケースを幾つか見た。夢を見ることを表す表現は次の3つの主要な要因によって動機づけられていると考えられる。(a) 夢は夢を見るという事象と独立には存在しない。(b) 夢はしばしば視覚像として捉えられる。(c) 夢を見ることにおける夢を見るものの意図性は低い。

キーワード：夢を見る、類型論、語彙化、軽動詞、視覚動詞

1. はじめに

日本語では「夢を見る」と言う。しかし、英語では夢を見ることを表すには、dream や have a dream と言い、視覚を表す動詞は用いない¹⁾。

(1) * {see / watch / look at} a dream

夢を見ることを表す表現は、言語によって異なっている。そこで、本稿では、夢を見ることがさまざまな言語でどのように表現されるかを調査し、その類型を明らかにする。夢を見ることを表す表現は、多くの言語において、空想に耽ったり、望みを抱いたりすることも意味するが、本稿では睡眠中に経験する夢に限定する。また、取り上げる形式を一定の範囲に収めるために、「～の夢を見る」「夢で～を見る」「～という夢を見る」などの夢の内容を述べる表現は必要のない限り原則として取り上げない。なお、本稿では夢を見ることを表すさまざまな言語の表現を挙げるが、その表現は当該言語において唯一の表現とは限らない。同じ言語から複数の

表現を挙げる場合もある。

以下、第2節では夢を見ることが動詞として語彙化されている場合を、第3節では夢を表す名詞を目的語として軽動詞を用いる場合を、第4節では夢を表す名詞を目的語として視覚動詞を用いる場合を、第5節ではそれ以外の稀なケースを見て、第6節で全体をまとめる。

2. 動詞として語彙化されている場合

英語では dream 一語で夢を見ることが表すことができる。つまり、夢を見ることが動詞として語彙化されているのである。本節では、この類型に該当するものを見る。

動詞と名詞の形態的な差異が少ない言語においては、同じ形態の語が夢を見ることが表す動詞としても夢を表す名詞としても機能しうる。例えば、東南アジア諸語やポリネシア諸語がこれに該当する。

表1 同じ形態が動詞と名詞の両方として機能する場合

言語	夢を見る	夢	
ビルマ語 ²⁾	einme?	einme?	(原田・大野 1979)
タイ語	fǎn	fǎn ³⁾	(傍士 2017)
ベトナム語	mơ	mơ	(川本 2011)
アイヌ語	wentarap	wentarap	(萱野 2002)
トンガ語	misi	misi	(Churchward 1959)
サモア語	miti	miti	(Milner 1966)
ハワイ語	moe‘uhane	moe‘uhane	(西沢 2016)
タヒチ語	moemoea	moemoea	(Davies 1978)

動詞と名詞が異なる場合でも、両者の形態の間には関連が認められる。

表2 動詞と名詞の形態が異なる場合

言語	夢を見る	夢	
ドイツ語	träumen	Traum	(『アクセス独和辞典』)
デンマーク語	drømme	drøm	(Axelsen 1995)
イタリア語	sognare	sogno	(『伊和中辞典』)
スペイン語	soñar	sueño	(『小学館西和中辞典』)
ポルトガル語	sonhar	sonho	(『現代ポルトガル語辞典』)
フランス語	rêver	rêve	(『ロワイヤル仏和中辞典』)
ポーランド語	śnić	sen	(Oxford-PWN)
チェコ語	snít	sen	(Hais & Hodek 1991)

ハンガリー語	álmodik	álm	(今岡 2009)
ヘブライ語	hālam	hālōm	(キリスト聖書塾編集部 2006)
アラビア語	hālama	hūlm	(Wehr 1994)
スワヒリ語	-ota	ndoto	(守野・中島 1990-1997)
ズールー語	phupha	-phupho	(Doke & Vilakazi 1953)
ヨルバ語	lá	àlá	(Fakinlede 2003)
チベット語	rmi ba	rmi lam ⁴⁾	(ケルサン・タウワ 2003)
インドネシア語	bermimpi	mimpi	(舟田他 2018)
タガログ語	managinip	panaginip ⁵⁾	(Panganiban 1972)
韓国語	kkwuta	kkwum	(뉴에이스 한일사전)
モンゴル語	zүүдlex	zүүд	(山越 2012: 239)
ウイグル語	tolčičči-ni	tolči	(池上 1997)

この中には、夢を表す名詞に接辞をつけて動詞化している場合がある。例えば、モンゴル語では接尾辞 *-lex* (山越 2012: 239)、インドネシア語では接頭辞 *ber-* により動詞化を行なっている。逆に、動詞から名詞が派生されている場合もある。スワヒリ語⁶⁾、ヨルバ語、韓国語⁷⁾ がこれに該当する。名詞と動詞の両方も共通の語根から形成されている場合もある。例えば、アフロ・アジア語族のアラビア語やヘブライ語では、*h-l-m* という語根から、動詞と名詞の両方が形成されている⁸⁾。

夢を見ることを動詞として語彙化している言語においては、経験者が主語となる場合が多い。しかし、経験者が必ずしも主語として表示されるとは限らない。古ノルド語では、夢を見ることは動詞 *dreyma* で表される。この動詞は夢を見ることを表す場合は通常非人称で用いられ、経験者を対格で取る⁹⁾。

- (2) *konung dreymdi aldri*
 王.ACC 夢をみる.PST.3SG 一度も～ない
 王は一度も夢を見たことがなかった

(*Heims-kringla* I, 171, in Cleasby & Vigfusson 1957: *dreyma*)

古英語においても、夢を見ることを表す動詞は非人称構文で用いられ、経験者は対格や与格で表示される¹⁰⁾ (例文中の与格 *hym* は写本によっては対格 *hine* となっている)。

- (3) hyt gelamp þæt hym mætte
 3SG.N.NOM 起こる.PST.3SG ということ 3SG.M.DAT 夢を見る.PST.3SG
 彼が夢を見るということがあった (創世記 37:5, in 小野・中尾 1980: 417)

このように、ゲルマン語派においてはかつて夢を見ることを表す動詞は非人称構文で用いられた。これは、夢を見るという事象における夢を見るものの意図性の低さの反映であると考えられる。しかし、このような非人称構文は次第に人称構文に変化していった¹¹⁾。

夢を見ることを表す動詞が夢を表す名詞を目的語に取り、いわゆる同族目的語構文になる場合もある。英語の場合は、名詞に修飾語がつかないと同族目的語構文は不可能である (Jespersen 1924: 137-138)。

- (4) dream a *(strange) dream

しかし、これは言語による。例えば、ヘブライ語聖書においては、夢を見ることを表すのに、修飾語のない同族目的語構文がしばしば用いられている¹²⁾。

- (5) wayyahālōm yōsēf hālōm
 そして夢を見た.3SG.M ヨセフ 夢
 そしてヨセフは夢を見た (創世記 37:5)

スワヒリ語では、「私は夢を見た」という場合には、同族目的語がつく¹³⁾。

- (6) Ni-li-ota ndoto.
 1SG.SBJ-PST-夢を見る 夢
 私は夢を見た

「私は…という夢を見た」という場合には、同族目的語をつけなくてもよい。

- (7) Ni-li-ota kuwa …
 1SG.SBJ-PST-夢を見る という …
 私は…という夢を見た

いずれにしても、動詞 -ota は通常単独では用いられない。ヨルバ語においても同様である。

- (8) Mo lá alá
 1SG.SBJ 夢を見る 夢
 私は夢を見た
- (9) Mo lá pé …
 1SG.SBJ 夢を見る という …
 私は…という夢を見た

韓国語では、夢を見ることを表す動詞 *kkwu-ta* があるが、この動詞は通常単独では用いず、*kkwum* などの夢を表す目的語を取るか、*kkwum* を編入した形で用いられる¹⁴⁾。

- (10) *kkwum-ul kkwu-ta*
 夢-ACC 夢を見る-DECL
 夢を見る (『뉴에이스 한일사전』 *kkwum*)
- (11) *akmong-ul kkwu-ta*
 悪い夢-ACC 夢を見る-DECL
 悪い夢を見る (『뉴에이스 한일사전』 *akmong*)
- (12) *kkwum-kkwu-ta*
 夢-夢を見る-DECL
 夢を見る (『뉴에이스 한일사전』 *kkwum*)

夢は夢を見ると言う事象と独立には存在しない。そのため、夢を動詞の項とすることは必ずしも必要なく、夢を見るという事象そのものが動詞として語彙化されうる。しかし、夢を見ることが動詞として語彙化されている言語であっても、さらに夢を表す名詞を同族目的語として取ることもあり、同族目的語を取ることが通常である言語も見られる。

夢を見ることが動詞として語彙化されている言語は、ヨーロッパに多く見られる。アフリカではバンツー諸語が該当する。アジアでは、東南アジアに見られ、その他の地域にも点在している。太平洋のポリネシア諸語にも見られる。

3. 軽動詞を用いる場合

軽動詞が夢を表す名詞を目的語としてとって、夢を見ることを表す場合もある。フランス語やイタリア語は、既に見たように夢を見ることを表す動詞 *rêver* や *sgnare* があるが、その他に軽動詞を用いた言い方もある。

(13) フランス語

Bonne nuit, et fais de beaux rêves !
 良い 夜 そして する.IMP.2SG ART.INDF.PL 美しい.PL 夢.PL
 おやすみなさい, いい夢をみるんですよ (『ロワイヤル仏和中辞典』 *rêve*)

(14) イタリア語

fare un sogno
 する.INF ART.INDF 夢
 夢をみる (『伊和中辞典』 *sogno*)

しかし, 夢を見ることを表すのに, もっぱら軽動詞を用いて表す言語もある。例えば, 以下はハウサ語の例である。

(15) naa yi mafarkii jiyà

1SG.SBJ.PST する 夢 昨日
 私は昨日夢を見た (Burquest 1992: 407)

中国語も軽動詞を用いる¹⁵⁾。

(16) 做了一个梦

する PRF 1 CLF 夢
 夢をみた (『中日辞典』「梦」)

アイルランド語でも, やはり軽動詞を用いた言い方がある。

(17) rinne mé brionglóid

する.PST 私 夢
 私は夢を見た (De Bhaldraithe 1959: *have*)

アイルランド語の名詞は主格と対格が融合しており, ここでは「私」が主語, 「夢」が目的語である。しかし, アイルランド語の動詞には, 「自立形 (autonomous form)」と呼ばれる非人称の活用形がある。

- (18) rinneadh taibhreamh dom
 する.PST.AUT 夢 に.ISG
 私は夢を見た (De Bhaldraithe 1959: *dream*)

ここでは経験者は前置詞の人称変化形で表されている。このような非人称構文は、第2節で見たゲルマン語派において歴史的に見られた非人称構文と軌を一にするものであろう。

チベット語では夢を見ることを表すのに本来「送る」を意味する動詞を用いる言い方がある。

- (19) rmi lam gtong-pa
 夢 送る-INF
 夢を見る (ケルサン・タウワ 2003: 「夢を見る」)

ケルサン・タウワ (2003: *gtong*) は、この動詞について「動詞化語句としても使う」と説明している。また、Mélac & Tournadre (2021) は、ラサの口語で同じ動詞である *btang*¹⁶⁾ について軽動詞であるとしている¹⁷⁾。(19) についても、軽動詞を用いた表現と考えてよいだろう。

英語の *have a dream* と同様にもともと所有を表す動詞を用いる表現はゲルマン語派・ロマンス諸語・スラブ語派において見られる。

- (20) ドイツ語
 einen schönen[bösen] Traum haben
 ART.INDF.ACC すてきな.ACC[嫌な.ACC] 夢.ACC 持つ.INF
 すてきな [嫌な] 夢を見る (『アクセス独和辞典』 *Traum*)

- (21) デンマーク語
 have en drøm
 持つ.INF ART.INDF 夢
 夢を見る (Axelsen 1995: .v. *drøm*)

- (22) スペイン語
 tener un buen[mal] sueño
 持つ.INF ART.INDF いい[悪い] 夢
 いい [悪い] 夢を見る (『小学館西和中辞典』 *sueño*)

- (23) ポルトガル語
 ter um sonho agradável
 持つ.INF ART.INDF 夢 楽しい
 楽しい夢を見る (『現代ポルトガル語辞典』 *sonho*)

(24) ルーマニア語

am avut visuri urâte.

AUX.1SG 持つ.PSTPTCP 夢.PL 嫌な.PL

私は嫌な夢を見た (Sadoveanu in *Dicționarul: vis*)

(25) チェコ語

mít zlé[divoké] sny

持つ.INF 悪い[途方もない].PL.ACC 夢.PL.ACC

悪い [途方もない] 夢を見る (*Slovník: sen*)

(26) スロヴェニア語

imeti sanje

持つ.INF 夢.PL¹⁸⁾夢を見る (金指 2009: *sanja*)

(27) ウクライナ語

maty son

持つ.INF 夢.ACC

夢を見る (Andrusyshen & Krett 1955: *son*)

これらの表現においては、所有動詞の本来の語彙的な意味は希薄であり、軽動詞とみなすことができる。

夢は夢を見るという事象と不可分に結びついている。そのため、夢を表す名詞はそもそも夢を見ることを含意していると言える。よって、夢を見ることを表すのに、動詞にそれほどの意味内容は必要ない。そのため、軽動詞を用いた言い方が可能になると考えられる。

軽動詞を用いた類型は、あまり多くないが、異なる地域で見られる。所有動詞を用いる表現はヨーロッパにおいて広がりを見せているが、他の地域では確認できず、地域的な特徴ではないかと考えられる。

4. 視覚動詞を用いる場合

「見る」ことを表す動詞を用いて「夢を見る」ことを表す場合が多く見られる。

古くは古代オリエントからこの類型の表現は見られる。まず、古代エジプト語において「見る」という動詞が用いられた (Szapkowska 2003: 18-21)。

- (28) jn sdrw m3 rswt
 FOCZ 眠っている人 見る.PTCP 夢
 夢を見るのは眠っている人だ (『雄弁な農夫の物語』 247-248 in Parkinson 2012: 205)

アッカド語では、夢をみることは夢を表す名詞 *šuttu* と見ることを表す動詞 *amāru* や *naṭālu* で表される (CAD: *šuttu*; Sahala & Svärd 2012: 567)

- (29) ibr-ī šutta aṭṭul
 友-1SG.POSS 夢.ACC 見る.PST.1SG
 我が友よ、私は夢を見た (Sumer 13 pl. 12 : 3 (OB Gilg.) in CAD: *naṭālu*)

ヒッタイト語においても、夢を表す名詞 *tešḫa-* および *zašḫai-* と視覚動詞で夢を見ることを表す¹⁹⁾。

- (30) 7-anna=za=kan zašḫain aušta
 7番目の=REFL=PTCL 夢.ACC 見る.PST.3SG
 彼は7つ目の夢を見た
 (Kešše, KUB XVII 1 II 4, in Friedrich & Kammenhuber 1984: 609)

西洋古典語においても、同様の表現が見られる。古典ギリシア語には夢を見ることを表す動詞があるが、迂言的な言い方が好まれた (Hemingway 2008: 80; Magowan 2017: 25)。

- (31) egō eīdon ónar
 私.NOM 見る.AOR.1SG 夢.ACC
 私は夢を見た (アリストパネス『騎士』 1090)

ラテン語においても、やはり、視覚動詞を用いた表現が見られる。

- (32) molestus est iucundum somnium uidenti
 煩わしい.NOM COP.3SG 快い.ACC 夢.ACC 見る.PRSPTCP.DAT
 qui excitat
 REL.NOM 目を覚まさせる.3SG
 快い夢を見ている者にとって目を覚まさせる人は煩わしい

(Seneca, *Ad Lucilium Epistulae Morale*, 102)

現代のヨーロッパでは、以下の言語で視覚動詞を用いる表現が見られる。

(33) フィンランド語

näh-dä un-ta
見る-INF 夢-PART
夢を見る (荻島 2000: *uni*)

(34) ハンガリー語

álm-ot lát-Ø
夢-ACC 見る.3SG
彼は夢を見る (今岡 2009: *lát*)

(35) ロシア語

Včera ja videl son.
昨日 1SG.NOM 見る.IMP.F.PST.SG.M 夢.ACC
昨日私は夢を見た (東郷他 1988: *videt'*)

(36) ルーマニア語 (古語)

a vedea un vis²⁰⁾
見る.INF ART.INDF 夢
夢を見る (Tiktin 1989: *vis*)

(37) 現代ギリシア語

vlépo éna óneiro
見る.1SG ART.INDF.ACC 夢.ACC
私は夢を見る (Stavropoulos 2008: *óneiro*)

ヨーロッパ東部に偏在しているが、系統はスラブ語派、ロマンス諸語、ヘレニック語派、ウラル語族とさまざまである。

アフロ・アジア語族のアラビア語は、既述の通り夢を見ることを表す動詞 *ḥalama* (夢を見る) があるが、視覚動詞を用いる言い方もある²¹⁾。

- (38) raʔā ḥulm-an fī manām-i-hi.
見る.PRF.3.SG.M 夢-ACC.INDF の中で 眠り-GEN-3SG.M
眠っている間に夢をみる²²⁾ (本田・石黒 1997: *ḥulm*)

チュルク語族においても、視覚動詞が用いられている。

(39) トルコ語

Ben de bir düş gör-dü-m

1SG も ひとつの 夢 見る-PST-1SG

私も夢を見た (*Kutsal Kitap*²³⁾ 創世記 40:16)(40) ウズベク語²⁴⁾

Kechasi tush ko‘r-di-m

夜に 夢 見る-PST-1SG

昨夜私は夢を見た。 (*Uzbek-English dictionary, tush*)

(41) 現代ウイグル語

chüsh kör-

夢 見る

夢を見る (菅原 2009: *chüsh*)

インド・ヨーロッパ語族に目を転じると、アルメニア語やペルシア語でも視覚動詞が用いられている。

(42) アルメニア語

eraz tesnel

夢 見る-INF

夢をみる (Asmangulyan & Hovhannisyan 1984: *dream*)

(43) ペルシア語

khāb dīd-an

夢 見る-INF

夢を見る (黒柳 2002: *khāb*)

インド語派では、サンスクリットにおいて視覚動詞が用いられた。

(44) māyādevī sukha-śayana-prasuptā imaṃ svapnam

摩耶夫人.NOM 快い-寝台-寝入る.PPPTCP.NOM この.ACC 夢.ACC

apaśyat

見る.IMPF.3SG

摩耶夫人は快い寝台で寝入り、この夢を見た。(『方广大莊嚴經』 in Hellwig 2010-2021)

現代のインド語派においても、同様の表現が見られる。

- (45) ヒンディー語
 sapnā dekh-nā
 夢.DIR 見る-INF
 夢を見る (町田 2016: *sapnā*)
- (46) ウルドゥー語
 khāb dekh-nā
 夢.DIR 見る-INF
 夢を見る (Crawley 1994: *dream*)
- (47) マラーティー語
 svapna pāh-nē
 夢 見る-INF
 夢を見る (Berntsen 1982-1983: *svapna*)
- (48) ベンガル語
 sbapna dekhā
 夢 見る.VN
 夢を見る (Biswas 2000: *sbapna*)
- (49) ネパール語
 sapanā/swapna dekh-nu
 夢 見る-INF
 夢を見る (三枝 2006: 「夢」)
- (50) シンハラ語
 hīna daki-navā
 夢.PL 見る-PRS
 夢を見る (野口 2015: *hīna dakinavā*)

南インドのドラヴィダ語族においても同様の表現が見られる。

- (51) タミル語
 kaṇavu kāṇa
 夢 見る-INF
 夢を見る (Winslow 1977: *kaṇavu*)

- (52) マラヤーラム語
 svapnam kāṇuka
 夢 見る.INF
 夢を見る (高島 2020: 「夢」)
- (53) テルグ語
 kala ganu
 夢 見る
 夢を見る (Brown 1903: *kala*)
- (54) カンナダ語
 kanasu kāṇu
 夢 見る
 夢を見る (Ziegler 1983: *dream*)

チベット諸語においても、視覚動詞を用いるものがある²⁵⁾。

- (55) シェルパ語, シッキム語
 rmi lam mthong
 夢 見る
 夢を見る (Tournadre & Suzuki 2023: 964)
- (56) バルティ語, プリク語, ラダック語
 gnyid lam mthong
 夢 見る
 夢を見る (Tournadre & Suzuki 2023: 964)

シェルパ語は主にネパール北東部クンプ地方で、シッキム語は主にインド北東部シッキム州で話されている。バルティ語・プリク語・ラダック語は主にパキスタン東北部バルティスターン地方からインド北部ラダック地方にかけて分布している。いずれもインド語派に地理的に近いので、その影響を受けたのではないかと思われる²⁶⁾。

東南アジアでは、ビルマ語やベトナム語で視覚動詞を用いた表現が見られる。

- (57) ビルマ語
 einmeʔ-myin
 夢-見る
 夢を見る (原田・大野 1979: *einmeʔ-myin*)

(58) ベトナム語

thấy một giấc mơ

見る 1 CLF 夢

一場の夢を見る (川本 2011: *mơ*)

カンボジア語では、「分かる・理解する」という意味の動詞が用いられる。

(59) *y^wəl* sɔp

分かる 夢

(夜に) 夢を見る (坂本 1988: *sɔp*)(60) *y^wəl* so:ŋ

分かる (昼寝の) 夢

(昼寝して) 夢を見る (坂本 1988: *so:ŋ*)

しかし、この *y^wəl* という動詞は古代クメール語では、「見る」という意味だったので (坂本 1988: *y^wəl*)²⁷⁾、これも本来は視覚動詞を用いた表現だったと言える。

東アジアでは、日本語が「夢を見る」というように視覚動詞を用いた言い方をする²⁸⁾。

夢を表す名詞を目的語とすれば、夢を見ることを表すには軽動詞でも不足はない。しかし、それにもかかわらず、視覚動詞を用いる言語が多く存在する。夢がしばしば視覚像として捉えられることに動機づけられた表現であると考えられる²⁹⁾。また、視覚動詞の使用は夢を見るという事象における夢を見る人の意図性の低さとも適合する。

視覚動詞を用いる類型は広範な地域に分布している。西南アジア、中央アジア、南アジアには多く分布し、東ヨーロッパや東南アジアにも見られる。東アジアでは日本語が該当する。

5. その他の場合

広東語や客家語では、夢を表す名詞を目的語とし、動詞に「發」が用いられる³⁰⁾。

(61) 広東語 發夢 *faat³ mung⁶* 夢を見る (千島 2005: 「發」)(62) 客家語 發夢 *bon⁵ mun⁴* 夢を見る (橋本 1972: 21)

この表現は、「發」が「生ずる」という意味で用いられてきたのではないかと推測される。

日本語には、「夢を結ぶ」という言い方もある。現代では、換喩により「やすらかに眠る」を意味する表現となっているが、もともとは夢を見ることを表す表現である。これも、「結ぶ」が

「生ずる」という意味で用いられたのではないかと推測される³¹⁾。

これまでとは異なるパターンとして、夢を主語とするものがある。アイルランド語においては、以下のような表現がある。

- (63) bhí brionglóid agam
 ある.PST 夢 に.1.SG
 私は夢を見た (De Bhaldraithe 1959: *have*)

つまり、「私に夢があった」という言い方で、「私は夢を見た」を表すのである。しかし、これは所有表現を用いた言い方である。アイルランド語などのケルト諸語では、所有は存在動詞と前置詞を用いて表される (Stalmaszczyk 2007)。

- (64) Tá airgead agam
 ある お金 に.1.SG
 私はお金を持っている (私にはお金がある) (Stalmaszczyk 2007: 126)

これは、場所型 (locational) の所有表現である (Stassen 2005; Stassen 2009)。夢を見ることを表すのに所有動詞を用いる言語がヨーロッパに偏在していることと、アイルランド語が英語の強い影響を受けたことを考えると、所有表現を用いて夢を見ることを表すのは英語の *have a dream* のなぞりであると推測される。

南インドのドラヴィダ語族のカンナダ語には、「夢が落ちる」あるいは「夢が来る」と言う言い方がある。

- (65) avan-ige kanasu bittu
 3SG.M-DAT 夢 落ちる.PST.3SG.N
 彼は夢を見た (彼に夢が落ちた) (Kittel & Bhatt 1968-1971: *kanasu*)
- (66) nan-age ii kanassu bantu
 1SG-DAT この 夢 来る.PST.3SG.N
 私はこの夢を見た (私にこの夢が来た) (Amritavalli 2014: 81)

ここでは、動詞は夢を表す名詞と一致し、経験者は与格で標示される。インド語派のマラーティー語においても、同様の言い方がある³³⁾。

- (67) ma-lā svapna paḍ-l-e
 1SG-DAT 夢(N) 落ちる-PST-N
 私は夢を見た (私に夢が落ちた)

カンナダ語とマラーティー語は系統が異なるが、地理的に隣接しているため同様の言い方を共有していると考えられる。夢は経験者の意図とは関係なく見るものであるため、これらの例においては、夢が経験者のもとに到来するものとして表現されている。

カンナダ語と同じドラヴィダ語族のテルグ語にも、類似した言い方がある。

- (68) rātri nāk' oka svapnam' ainadi
 夜 1SG.DAT ひとつの 夢(N) なる?.PST.3SG.N
 昨夜私は夢を見た (Brown 1903: *svapnamu*)

ainadi は本来「なる」を意味する動詞 *avu* の過去形と考えられるが、動詞が夢を表す名詞と一致し、経験者が与格で標示されていることから、文全体の構造はカンナダ語の (65) や (66) およびマラーティー語の (67) と同じであり、夢を見ることを経験者に起こることとして表現していると考えられる。これらの文はいわゆる「与格主語構文」に該当するが、この構文は経験者によって意図的に制御できない事態を表しており (Shibatani & Pardeshi 2001: 324)、夢を見ることを表すのに適している。

夢に出てくることを表す動詞を使って夢を見ることを表す場合もある。ロシア語には、夢を表す名詞 *son* と同根の動詞 *snit'sja* がある。この動詞は主語で表された人や物が与格で表された人の夢に現れることを表す³⁴⁾。

- (69) Ty mne prisnilsja.
 2SG.NOM 1SG.DAT 夢に出てくる.PF.PST.SG.M
 夢に君が出てきた (君の夢を見たよ) (東郷他 1988: *snit'sja*)

主語を夢そのものにする、夢を見ることを表す。

- (70) Mne prisnilsja ploxoј son.
 1SG.DAT 夢に出てくる.PF.PST.SG.M 悪い.NOM 夢(M).NOM
 私は悪い夢を見た (東郷他 1988: *snit'sja*)

これは、主語と動詞が同根なので、同族主語構文と呼ぶことができる³⁵⁾。チェコ語でも類似し

た例が見られる。zdát se という動詞は夢に出てくると言う意味で用いられる。

- (71) co se ti zdálo?
 何.NOM REFL.ACC 2SG.DAT 夢に出てくる.PST.SG.N
 君は何の夢を見たの（君の夢に何が出てきたの）（*Slovník: zdáti se*）

次の文では夢を主語として、夢を見ることを表している。

- (72) zdál se mi krásný sen
 夢に出てくる.PST.SG.M REFL.ACC 1SG.DAT 美しい.NOM 夢(M).NOM
 私は美しい夢を見た（*Slovník: sen*）

夢は経験者の意図とは関係なく経験者の意識に現れるものであるということを反映した表現であろう。

本節では稀なケースを見てきたが、その中でも夢を見るという事象における夢を見る者の意図性の低さに動機づけられていると考えられる表現が見られた。

6. まとめ

本稿では、夢を見ることを表す表現の類型を明らかにした。

夢は夢を見るという事象と独立には存在しない。そのため、夢を見ることを動詞だけで表すということが起こる。この類型は、ヨーロッパやポリネシアに多く見られるが、その他の地域にも点在している。夢の概念は動詞の意味に含まれているが、夢を表す名詞を同族目的語として取る場合もあり、同族目的語を取ることが通常になっている言語もある。

夢を見ることを表すために、夢を表す名詞を項として何らかの動詞を用いる場合もある。夢を表す名詞が既に夢を見ることを含意しているので、動詞に意味内容はほとんど必要なく、軽動詞が用いられる。この類型はあまり多くはないが異なる地域で見られる。所有動詞を軽動詞とした表現がヨーロッパで見られるが、これは地域的特徴であろうと考えられる。

夢を表す名詞を目的語として、視覚動詞を用いる場合もある。これは、西南アジア、中央アジア、南アジアに多く分布している。東ヨーロッパや東南アジアにも見られる。この類型は、夢がしばしば視覚像として捉えられることに動機づけられたものであると考えられる。また、夢を見ることにおいて夢を見る者の意図性が低いことも適合する。

その他に稀なケースとして、場所型の所有表現を用いるもの、落下や到来を意味する動詞を用いるもの、夢に現れることを表す動詞に同族主語をつけて表すものがあつた。

これらの類型に加えて、非人称構文が用いられたり、経験者が与格で標示されたりするなど、夢を見ることが意図性の低い事象であることの反映も見られた。

以上より、夢を見ることが表す表現は次の3つの主要な要因によって動機づけられていると考えられる。(a) 夢は夢を見るという事象と独立には存在しない。(b) 夢はしばしば視覚像として捉えられる。(c) 夢を見ることがにおける夢を見るものの意図性は低い。

なお、本稿の調査は偏りを免れていない。目立つところでは、南北アメリカ大陸やオーストラリア大陸からのデータがない。これについては、今後の課題としたい。

略号一覧

1: 1人称	GEN: 属格	POSS: 所有
2: 2人称	IMP: 命令法	PPPTCP: 過去受動分詞
3: 3人称	IMPF: 未完了	PRF: 完了
ACC: 対格	INDF: 不定	PRS: 現在
AOR: アオリスト	INF: 不定詞	PRSPTCP: 現在分詞
AUT: 自立形	LOC: 処格	PST: 過去
AUX: 助動詞	M: 男性	PTCL: 小辞
ART: 冠詞	MID: 中動態	PTCP: 分詞
CLF: 類別詞	N: 中性	REFL: 再帰
COP: 繫辞	NOM: 主格	REL: 関係詞
DAT: 与格	PART: 分格	SBJ: 主語
DECL: 叙述	PF: 完了	SG: 単数
DIR: 直格	PL: 複数	VN: 動名詞

注

- 1) see が用いられないことは頻繁に指摘されている。watch については『ウイズダム和英辞典』（「ゆめ」）に、look at については『ウイズダム英和辞典』（*dream*）に記載されている。
- 2) 「夢を見る」には *einme? me?* という言い方もある。*einme?* は *ei?* と *me?* の複合語で、*ei?* が「寝る、眠る」、*me?* が「欲しがる」という意味であることから、以下のような歴史的変化が推定される。
 - ① *me?* は「夢を見る」ことを意味していた。
 - ② *me?* が比喩的に「欲しがる」を意味するようになった。
 - ③ 「夢を見る」ことを表す場合にはその意味を明確にするために *ei?*（寝る）と組み合わせて *einme?*（寝て夢を見る）と言うようになった。
 - ④ *einme?* が「夢」を意味する名詞にもなった。
 - ⑤ 動詞 *me?*（夢を見る）が *einme?*（夢）を目的語として取って *einme? me?* という言い方ができた。
 - ⑥ 動詞 *me?* は単独では「欲しがる」という意味しか表さなくなった。
- 3) 動詞を名詞化する *khwaam* を伴った *khwaam fân* という言い方もあり、この方が改まった語である。
- 4) 動詞語幹 *rmi* に「道」を意味する *lam* が付いている。この要素が付いた理由は分からないが、日本語の「夢路」を想起させる。「夢路を辿る」という言い方を考えると、夢を何らかのプロセスと捉え

ているのかもしれない。

- 5) Panganiban (1972) は, panaginip の意味を deep dream not easily remembered, but supposed to be the product of past or present excitement or experience と説明している。しかし, この語は必ずしもそのような意味で用いられているわけではない。例えば, タガログ語訳聖書 *Magandang balita para sa ating panahon* (Manila: Philippine Bible Society, 1980) では, 創世記 37 章 9 節でヨセフが夢を見てそれを兄弟に話す際にその夢のことを panaginip と言っているが, 容易に思い出せない夢を意味しているとは考えられない。
- 6) 詳しくは, Polomé (1967: 69, 75), Dimmendaal (2011: 141-142) を参照されたい。
- 7) 動詞語幹 kkwu- に名詞化接尾辞 -m をつけて名詞を派生している。
- 8) ベルベル語も w-r-g という語根から動詞と名詞の両方が形成されている (石原・新開 2006: 155)。
- 9) 詩語では, 動詞を中動態にすることにより経験者を主語とする人称構文にすることも可能である。
- (i) draum dreymdumk
夢.ACC 夢をみる.MID.PST.1SG
私は夢を見た (*Bjarnar Saga Hitdæla-kappa*, 49, in Cleasby & Vigfusson 1957: dreyma)
また, 夢に出ることを表す場合には, 夢に出てくる人物を主語にする人称構文になる。
- (ii) sá maðr dreymir mik jafnan
あの.NOM 男.NOM 夢に出る.3SG 1SG.ACC いつも
あの男がいつも私の夢に出てくる (*Forn-sögur*, 98, in Cleasby & Vigfusson 1957: dreyma)
- 10) 査読者から経験者は一般的に与格で表示されるのではないかという指摘があった。確かに指摘の通りだが, 古ノルド語や古英語では非人称構文で経験者が対格で表示される場合もあった。古ノルド語については Barðdal (2011) を, 古英語については Allen (1995) を参照されたい。
- 11) 英語については, Jespersen (1924: 149, 160, 344), 小野・中尾 (1980: 416-417), 中尾 (1972: 297-299), 野原 (1993: 79-80) を参照されたい。同じ変化はスウェーデン語にも起きた (Falk 2018: 1)。ドイツ語には Es träumte mir や Mir träumte のような非人称表現が古語法として残存している。経験者を主語とする人称構文への変化は, 標準ヨーロッパ語 (Standard Average European) が形成されていく過程の一環として位置付けられる。この点については, Haspelmath (2001a) および Haspelmath (2001b) を参照されたい。
- 12) 『欽定訳聖書』では, ヘブライ語法を踏襲して修飾語のない同族目的語が見られる。
- (i) And Joseph dreamed a dream (創世記 37:5)
- 13) スワヒリ語とヨルバ語については, 大阪大学の小森淳子氏にご教示いただいた。
- 14) 韓国語における同族目的語や編入については, 鄭 (2010) や朴 (2017) を参照されたい。
- 15) ただし, 古典語においては「夢」単独で夢を見ることも表した。
- (i) 古之真人 其寢不夢 其覺無憂
いにしへ じんじん そ い めめ
古の真人は, 其の寝ぬるや夢みず, 其の覺むるや憂無し。
むかしの真人は, 眠っているときには夢を見ず, 起きているときには心配事がなかった。
(『莊子』太宗師, 『新釈漢文大系7 老子・莊子(上)』明治書院, 1966)
- しかし, 現代語では動詞としての用法は単独では不可能である。
- 16) gtong は文語の現在形であり, btang は現代口語の完了形である。
- 17) 「送る」を意味する動詞が軽動詞となっていることは, 日本語の「やる」が「する」の意味で用いられることと類似している。
- 18) この語は通常複数形で用いられる。
- 19) この表現はしばしば -za-kan を伴うことが指摘されている (Friedrich & Kammenhuber 1984: au-/u-; Mouton 2007: 10-11)。これは他に類例のない特徴である。
- 20) ルーマニア語で夢を意味する vis の語源はラテン語の visum (見られるもの, 光景, 幻視, 幻像) であり, 夢を見るものとして捉えている。

- 21) アラビア語で夢を表す名詞には ru?yā もあるが、これは「見る」という動詞 ra?ā と同じく、見ることを表す語根 r-?-y から作られている。これは、夢が見るものであるとの捉え方がもたれている。
- 22) 日本語訳に主語の人称・性・数や動詞の相が反映されていないのは、アラビア語文法では完了形 3 人称単数男性が動詞の引用形 (citation form) であるためである。
- 23) *Kutsal kitap: Eski ve Yeni Antlaşma (Tevrat, Zebur, İncil)*. İstanbul: Ohan Matbaacılık, 2002.
- 24) 小松 (1993: *dream*) は (i) の訳を「夢を見る」としているが、-da は場所格を表しており、「夢で見る」ではないかと考えられる。
- (i) tush-da ko'r-moq
夢-LOC 見る-INF (小松 1993: *dream*)
- 25) 例文の表記は対応する古典チベット語の正書法を翻字したものであり、音形は言語によって異なる。
- 26) (55) と同じ表現は、チベット医学の經典である『四部医典』第二部 *bshad rgyud* でも用いられている (Jäschke 1975: *rmi-ba*)。これはサンスクリット語法を取り入れたものかもしれない。
- 27) 見ることを表す動詞が理解することを表すようになる意味変化は極めて一般的なものである (Lakoff and Johnson 1980; Sweetser 1990)。
- 28) 目的語名詞を編入した「夢見る」もある。また、文語ではこれを上二段活用にした「夢む」があり、融合が進んでいたことを窺わせる。
- 29) 中川 (1995) は、アイヌ語では「夢に見た様子」を wentarap siri ではなく、wentarap humi と言うことから、夢が視覚的な感覚のものとは捉えられていないと述べている (中川 1995: 「ウエンタラプ」)。夢は視覚像として捉えることが可能だが、視覚とは異なる経験として捉えることも可能だと考えられる。
- 30) この表現は漢籍にも見られる。
- (i) (盧元明は友人の王由が別れを告げる夢を見た。その後、王由が殺されたと聞いた。) 尋其亡日、乃是發夢之夜。
その亡くなった日を確かめると、まさに夢を見た夜だった。
(『北史』卷三十列傳第十八, 『北史』上海: 漢語大詞典出版社, 2004)
- 中国語では (16) のように軽動詞を用いた「做梦」が使われるようになったが、広東語や客家語には「發夢」が残った。
- 31) 「結ぶ」は「実を結ぶ」や「露を結ぶ」において「生ずる」という意味で用いられている。また、古文においては、感情を生じることを表すのにも用いられた。
- (i) 初め興宴より起こりて、長き怨を結ぶたぐひ多し (『徒然草』第 130 段)
藤森 (2008: 70) は、「ひもを結ぶことにより結び目ができるように、眠ることによって夢というある構造を持ったものが形成されることから「結ぶ」が用いられると考えられる」と述べている。
- 32) 表記が kanasu ではなく kanassu であるのは、Amritavalli の転写による。
- 33) 例文 (67) は、以下の表現に経験者を加えて過去時制にし、国立国語研究所のプラシヤント・バルデシ氏に確認して頂いたものである。
- (i) svapna paḍ-nē
夢 落ちる-INF
夢を見る (Berntsen 1982-1983: *svapna*)
- 34) 東郷他 (1988) は、snit'sja に「夢を見る」という訳語を与えているが、夢に出てくる人や物が主語、経験者が与格であることを踏まえて、ここでは「夢に出てくる」という意味だと考える。丸括弧内は東郷他の訳文。
- 35) 同族主語構文については、風間 (2003: pp.302-303) を参照されたい。

参考文献

- Allen, Cynthia (1955) *Case marking and reanalysis : grammatical relations from Old to Early Modern English*. Oxford: Clarendon Press.
- Amritavalli, Raghavachari (2014) Rich results. In: Pritha Chandra & Richa Srishti (eds.) *The lexicon-syntax interface: perspectives from South Asian languages*, 71-100. Amsterdam: John Benjamins.
- Andrusyshen, C. H. & J. N. Krett (1955) *Ukrainian-English dictionary*. Saskatoon: University of Saskatchewan.
- Asmangulyan, H.A. & M.I. Hovhannisyan (1984) *Angleren-hayeren bararan: shurj 30000 bar*. Erevan: "Hayastan" Hratarakch'ut'yun.
- Axelsen, Jens (1995) *Dansk-engelsk ordbog*. 10. udgave 4. oplag. Copenhagen: Gyldendal.
- Barðdal, Jóhanna (2011) The rise of Dative Substitution in the history of Icelandic: A diachronic construction grammar account. *Lingua* 121: 60-79.
- Berntsen, Maxine (1982-1983) A basic Marathi-English dictionary. <https://dsal.uchicago.edu/dictionaries/berntsen/>
- Biswas, Sailendra (2000) *Samsad Bengali-English dictionary*. 3rd ed. Calcutta: Sahitya Samsad.
- Brown, Charles Philip (1903) *A Telugu-English dictionary*. Madras: Society for Promoting Christian Knowledge.
- Burquest, Donald A. (1992) An introduction to the use of aspect in Hausa narrative. In: Shin Ja J. Hwang & William R. Merrifield (eds.) *Language in context: Essays for Robert E. Longacre*, 393-417. Dallas: SIL and University of Texas at Arlington.
- CAD = *The Assyrian dictionary of the Oriental Institute of the University of Chicago* (1956-2010) Chicago: Oriental Institute; Glückstadt: Augustin.
- Churchward, C. Maxwell (1959) *Tongan dictionary (Tongan-English and English-Tongan)*. London: Oxford University Press.
- Cleasby, Richard & Gudbrand Vigfusson (1957) *An Icelandic-English dictionary*. Oxford: Clarendon Press.
- Crawley, Angela (ed.) (1994) *Oxford elementary learner's English Urdu dictionary*. Oxford: Oxford University Press.
- Davies, John (1978) *A Tahitian and English dictionary*. New York: AMS Press.
- De Bhaldráithe, Tomás (1959) *English-Irish dictionary*. Baile Átha Cliath: Oifig an tSoláthair.
- Diçionarul = Diçionarul limbii romine literare contemporane* (1955-1957) București: Academia Republicii Populare Romine.
- Dimmendaal, Gerrit J. (2011) *Historical linguistics and the comparative study of African languages*. Amsterdam: John Benjamins.
- Doke, C. M. & B. W. Vilakazi (1953) *Zulu-English dictionary*. 2nd ed. rev. Johannesburg: Witwatersrand University Press.
- Fakinlede, Kayode (2003) *English-Yoruba Yoruba-English modern practical dictionary*, New York: Hippocrene Books.
- Falk, Cecilia (2018) From impersonal to reflexive verb. *Working Papers in Scandinavian Syntax* 100: 1-19.
- Friedrich, Johannes & Annelies Kammenhuber (1984) *Hethitisches Wörterbuch*. Bd. 1, Lfg. 8. Heidelberg: C. Winter Universitätsverlag.
- Hais, Karel & Břetislav Hodek (1991) *Velký anglicko-český slovník*. Vyd. 2. Praha: Academia.
- Haspelmath, Martin (2001a) Non-canonical marking of core arguments in European languages. In: Aikhenvald, Alexandra, R. M. W. Dixon & Masayuki Onishi (eds.) *Non-canonical marking subjects and objects*, 53-83. Amsterdam: John Benjamins.

- Haspelmath, Martin (2001b) The European linguistic area: Standard Average European. In: Martin Haspelmath, Ekkehard König, Wolfgang Oesterreicher & Wolfgang Raible (eds.) *Language typology and language universals: an international handbook*, 1492–1510. Berlin/New York: Walter de Gruyter.
- Hellwig, Oliver (2010-2021) *The digital corpus of Sanskrit*. <http://www.sanskrit-linguistics.org/dcs/index.php>.
- Hemingway, Ben (2008) The dream in classical Greece: Debates and practices. PhD diss., University of Cambridge.
- Jäschke, Heinrich August (1975) *A Tibetan-English dictionary with special reference to the prevailing dialects*. Delhi: Motilal Banarsidass.
- Jespersen, Otto (1924) *Philosophy of grammar*. London: George Allen & Unwin.
- Kittel, Ferdinand & M. Mariappa Bhatt (1968-1971) *Kittel's Kannada-English dictionary*. Madras: University of Madras.
- Lakoff, George & Mark Johnson (1980) *Metaphors we live by*. Chicago: University of Chicago Press.
- Magowan, Stephanie (2017) Approaching sleep and dreams in early Greek though. PhD diss., Royal Holloway University of London.
- Mélaç, Eric & Nicolas Tournadre (2021) The semantics of the verb *give* in Tibetan: The development of the transfer construction and the honorific domain. In: Myriam Bouveret (ed.) *Give constructions across languages*, 175–193. Amsterdam: John Benjamins.
- Milner, George Bertram (1966) *Samoan dictionary: Samoan-English, English-Samoan*. London: Oxford University Press.
- Mouton, Alice (2007) *Rêves hittites : contribution à une histoire et une anthropologie du rêve en Anatolie ancienne*. Leiden: Brill.
- Oxford-PWN = Oxford-PWN Polish-English dictionary* (2002) Warszawa: Wyd. Nauk. PWN
- Panganiban, José Villa (1972) *Diksyunaryo-tesauro Pilipino-Ingles*. Lungsod Quezon: Manlapaz Pub. Co.
- Parkinson, Richard Bruce (2012) *The tale of the eloquent peasant: a reader's commentary*. Hamburg: Widmaier.
- Polomé, Edgar C. (1967) *Swahili language handbook*. Washington: Center for Applied Linguistics.
- Sahala, Aleks, & Saana Svärd (2021) Language technology approach to “seeing” in Akkadian. In: Kiersten Neumann & Allison Thomason (eds.) *The Routledge handbook of the senses in the ancient Near East*, 561-575. Abingdon: Routledge.
- Shibatani, Masayoshi & Prashant Pardeshi (2001) Dative Subject Constructions in South Asian languages. In: Peri Bhaskarrao & Karumuri V. Subbarao (eds.) *The Yearbook of South Asian languages and linguistics 2001*, 311-347. New Delhi: Sage Publications.
- Peri Bhaskarrao and K.V. Subbarao (Eds.) *The Yearbook of South Asian Languages and Linguistics 2001*. New Delhi: Sage Publications. Pp. 311-347.
- Slovník = Slovník spisovného jazyka českého* (1971) Praha: Academia.
- Stalmaszczyk, Piotr (2007) Prepositional possessive constructions in Celtic languages and Celtic Englishes. In: Hildegard L. C. Tristram (ed.) *The Celtic languages in contact: Papers from the workshop within the framework of the XIII International Congress of Celtic Studies*, 126-145. Potsdam: Universitätsverlag Potsdam.
- Stassen, Leon (2005) Predicative possession. In: Martin Haspelmath, Matthew S. Dryer, David Gil & Bernard Comrie (eds.) *The world atlas of language structure*, 474–477. Oxford: Oxford University Press.
- Stassen, Leon (2009) *Predicative possession*. Oxford: Oxford University Press.

- Stavropoulos, D.N. (2008) *Oxford Greek-English learner's dictionary*. Oxford: Oxford University Press.
- Sweetser, Eve (1990) *From etymology to pragmatics: Metaphorical and cultural aspects of semantic structure*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Szpakowska, Kasia (2003) *Behind closed eyes: Dreams and nightmares in ancient Egypt*. Swansea: The Classical Press of Wales.
- Tiktin, Hariton (1989) *Rumänisch-Deutsches Wörterbuch*. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.
- Tournadre, Nicolas & Hiroyuki Suzuki (2023) *The Tibetan Languages: An introduction to the family of languages derived from Old Tibetan*. Villejuif: LACITO.
- Uzbek-English dictionary* (1980) Oxford; New York: Oxford University Press.
- Wehr, Hans (1994) *A dictionary of modern written Arabic*. ed. J. Milton Cowan. 4th ed. Ithaca: Spoken Language Services.
- Winslow, Miron (1977) *Tamil-English dictionary*. Wiesbaden: Franz Steiner Verlag.
- Ziegler, Friedrich (1983) *Ziegler's English-Kannada dictionary*. New Delhi: Asian Educational Services.
- 『アクセス独和辞典』(2010) 東京：三修社。
- 池上二良編 (1997) 『ウイルト語辞典』札幌：北海道大学図書刊行会。
- 石原忠佳・新開正 (2006) 『ベルベル人とベルベル語文法：民族・文化・言語：知られざるベルベル人の全貌』東京：新風舎。
- 今岡十一郎編著 (2009) 『簡約ハンガリー語辞典』東京：大学書林。
- 『伊和中辞典』(1999) 第2版。東京：小学館。
- 『ウィズダム英和辞典』(2019) 第4版。東京：三省堂。
- 『ウィズダム和英辞典』(2007) 東京：三省堂。
- 荻島崇 (2000) 『フィンランド語日本語小辞典』東京：大学書林。
- 小野茂・中尾俊夫 (1980) 『英語史 I』東京：大修館書店。
- 風間伸次郎 (2003) 「アルタイ諸言語の3グループ (チュルク, モンゴル, ツングース), 及び朝鮮語, 日本語の文法は本当に似ているのか—対照文法の試み」アレキサンダー・ボビン・長田俊樹共編『日本語系統論の現在：国際日本文化研究センター共同研究報告』249-340. 京都：国際日本文化研究センター。
- 金指久美子 (2009) 『スロヴェニア語日本語小辞典』東京：大学書林。
- 萱野茂 (2002) 『萱野茂のアイヌ語辞典』増補版。東京：三省堂。
- 川本邦衛編 (2011) 『詳解ベトナム語辞典』東京：大衆館書店。
- キリスト聖書塾編集部編 (2006) 『現代ヘブライ語辞典』松戸：日本ヘブライ文化協会。
- 黒柳恒男 (2002) 『新ペルシア語大辞典』改訂増補版。東京，大学書林。
- ケルサン・タウワ (2003) 『チベット語辞典：蔵日・日蔵』東京：カワチェン。
- 『現代ポルトガル語辞典』(2014) 3訂版。東京：白水社。
- 小松格 (1993) 『英語で引く日本語-ウズベク語辞典』東京：泰流社。
- 三枝礼子編著 (2006) 『日本語ネパール語辞典』東京：大学書林。
- 坂本恭章 (1988) 『カンボジア語辞典』東京：大学書林。
- 『小学館西和中辞典』(2007) 東京：小学館。
- 菅原純編 (2009) 『現代ウイグル語小辞典』府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 高島淳編 (2020) 『日本語・マラヤーラム語辞典』府中：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 千島英一編著 (2005) 『東方広東語辞典』東京：東方書店。
- 『中日辞典』(2016) 第3版。東京：小学館。
- 鄭聖汝 (2010) 「韓国語における他動性：プロトタイプ理論から見たカテゴリーの内部構造と非規範的構文」『大阪大学大学院文学研究科紀要』50: 91-152。
- 東郷他編 (1988) 『研究社露和辞典』東京：研究社。

- 中尾俊夫（1972）『英語史Ⅱ』東京：大修館書店。
- 中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』東京：草風館。
- 西沢佑（2016）『新ハワイ語 - 日本語辞典』東京：千倉書房。
- 野口忠司編著（2015）『シンハラ語・日本語辞典』東京：三省堂。
- 野原康弘（1993）「「夢」に関連する語の推移について」『英米評論』8: 71-87。
- 朴恩珠（2017）「韓国語の「同一語根の単語が連続する動詞群」の捉え方について：同族目的語動詞と合成動詞に照らし合わせて」『大阪女学院短期大学紀要』47: 43-54。
- 橋本萬太郎（1972）『客家語基礎語彙集』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 原田正春・大野徹共編（1979）『ビルマ語辞典』大阪：日本ビルマ文化協会。
- 藤森秀美（2008）「「結ぶ」の意味分析」『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』20（1）: 63-73。
- 舟田京子・高殿良博・左藤正範編（2018）『プログレッシブインドネシア語辞典』東京：小学館。
- 傍士豊編著（2017）『プログレッシブタイ語辞典』東京：小学館。
- 本田孝一・石黒忠昭編（1997）『パスポート初級アラビア語辞典』東京：白水社。
- 町田和彦編著（2016）『ヒンディー語・日本語辞典』東京：三省堂。
- 守野庸雄・中島久編（1990-1997）『スワヒリ語辞典』東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。
- 山越康裕（2012）『詳しくわかるモンゴル語文法』東京：白水社。
- 『ロワイヤル仏和中辞典』（2005）第2版。東京：旺文社。
- 『뉴에이스 한일사전』（1994）서울：금성출판사。

A Typology of Expressions of Dreaming

Tohru HIRATSUKA

Abstract

This study elucidates the typology of expressions of dreaming, a topic of inquiry previously unexplored in linguistic studies. Three major types of expressions were identified.

(i) **Verbs of Dreaming:** In this type, dreaming is lexicalized as a verb. This type is commonly found in Europe and Polynesia and occurs in other regions. Verbs of dreaming may take cognate objects, and in some languages, this is the norm.

(ii) **Light Verbs with 'Dream' Noun:** This type features light verbs that take a noun representing 'dream' as their object. Although less frequent globally, it occurs in diverse areas. Some European languages use possessive verbs to indicate the act of dreaming, representing a regional characteristic.

(iii) **Verbs of Seeing with 'Dream' Noun:** This type pairs verbs of seeing with a noun representing 'dream' and is predominantly distributed in Southwest, Central, and South Asia, with instances in Eastern Europe and Southeast Asia.

Additionally, several rare cases have been reported. This study suggests that expressions of dreaming are motivated by three key factors: (a) dreams do not exist independently of the act of dreaming, (b) dreams are often conceptualized as visual images, and (c) the intentionality of the person dreaming is low in the act of dreaming.

Keywords: dreaming, typology, lexicalization, light verbs, seeing verbs

